

2020年3月期 決算説明会



2020年6月5日

リバーエテック株式会社

JASDAQ 証券コード6666

2020年3月期 決算概要

執行役員総務本部長 大柴 公基

2021年3月期 業績予想および今後の取り組みについて

代表取締役社長 若尾 富士男

2020年3月期 決算概要

- 増収：スマートフォン、医療機器向けが好調に推移
- 収益改善：収益性を重視した不採算製品等の見直しや整理撤退、生産集約等の全体最適化やコストコントロールの徹底等が奏功
- 当期純利益：今後の業績動向を勘案して繰延税金資産を計上

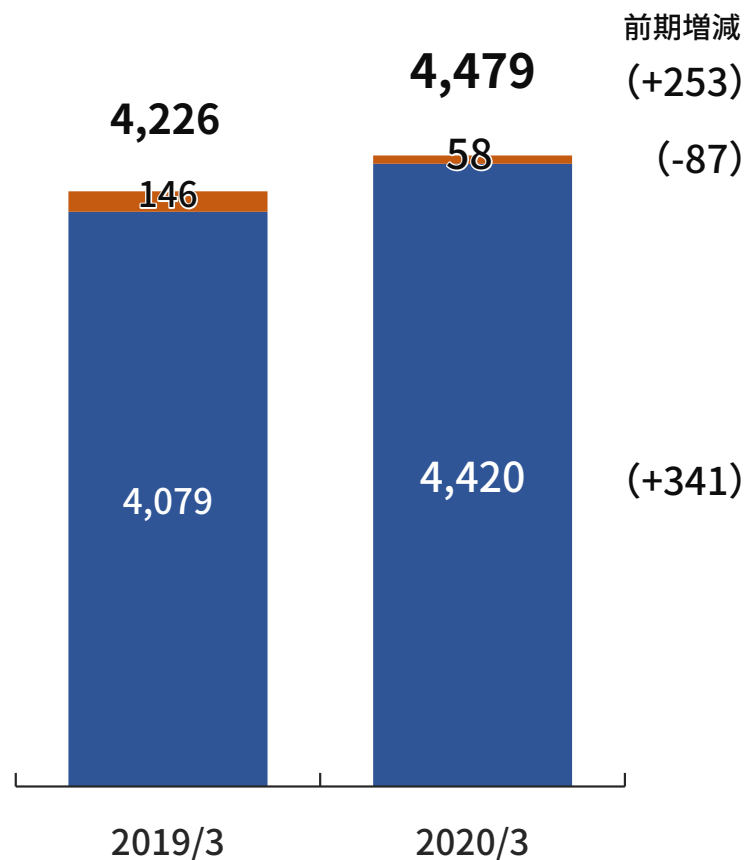
(単位：百万円)

	2019年 3月期	期初予想 (5/13)	2020年 3月期	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	4,226	4,709	4,479	+253	6.0%
営業利益 営業利益率	△676 △16.0%	32 0.7%	5 0.1%	+681	—
経常利益 経常利益率	△681 △16.1%	11 0.2%	△8 △0.2%	+673	—
親会社株主に帰属する 当期純利益 純利益率	△753 △17.8%	10 0.2%	87 2.0%	+841	—
為替 (USドル)	111.00	110.00	109.56	—	—

- 水晶製品：スマートフォン、医療機器向けが好調
- その他の電子部品：車載関連向けが減少

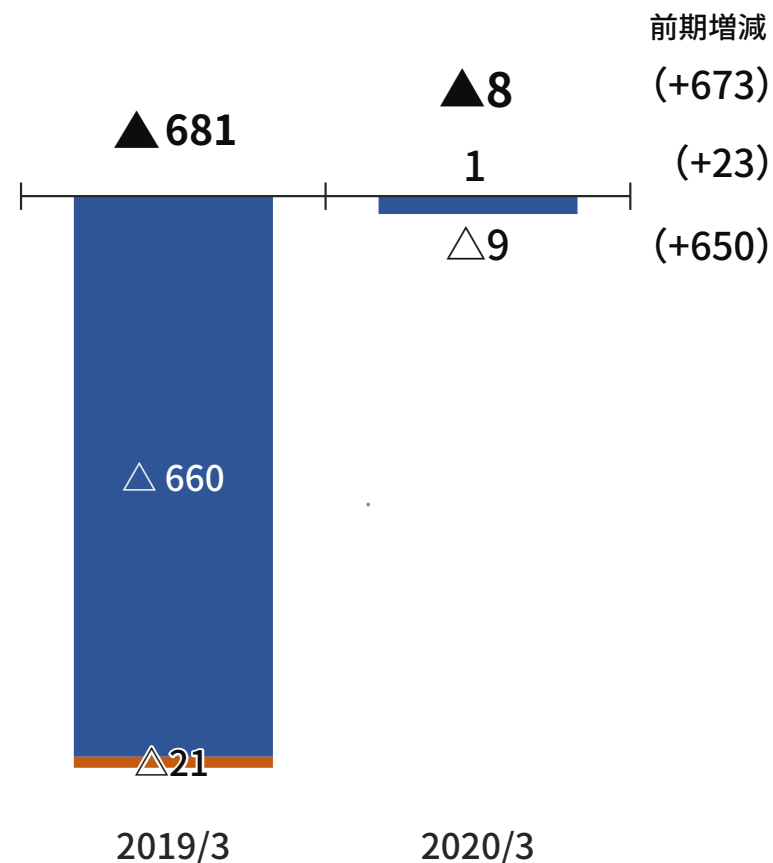
売上高

■ 水晶 ■ その他 (単位：百万円)



経常利益

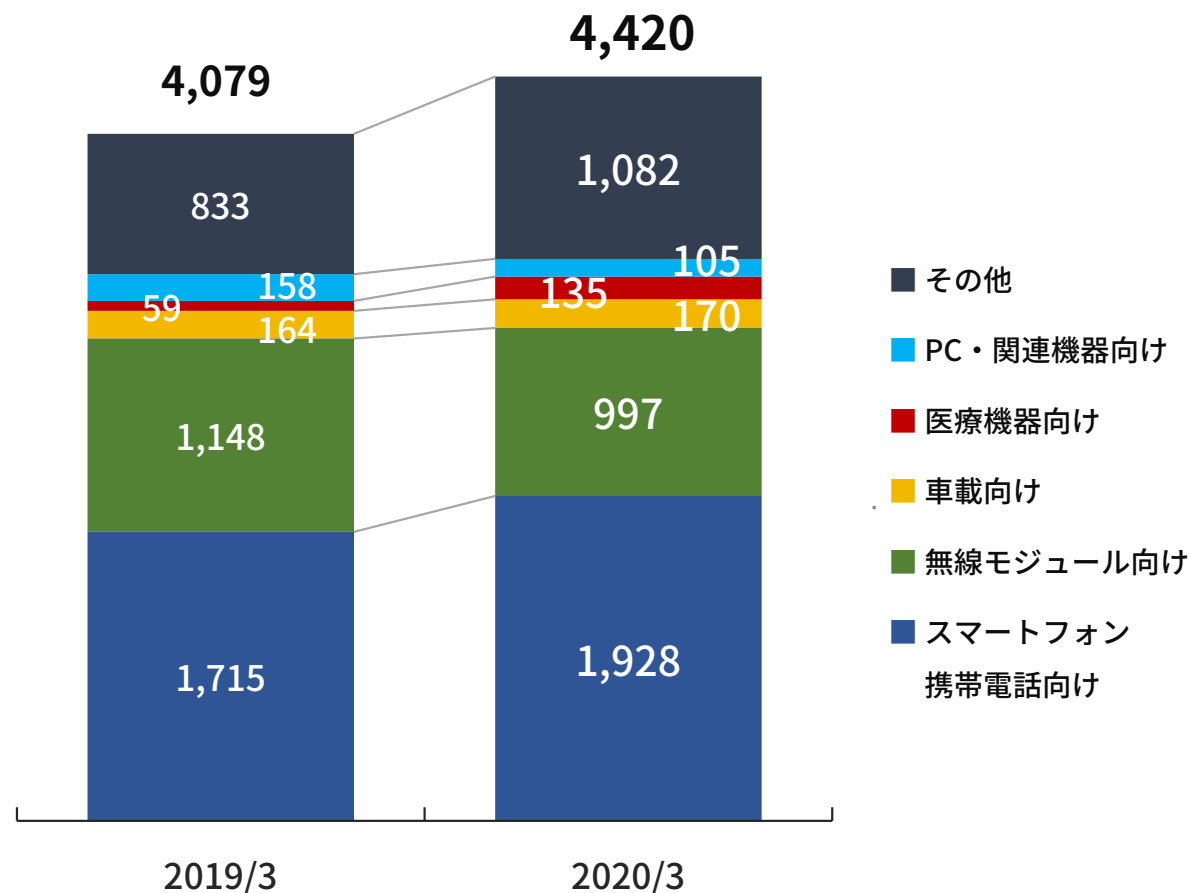
■ 水晶 ■ その他 (単位：百万円)



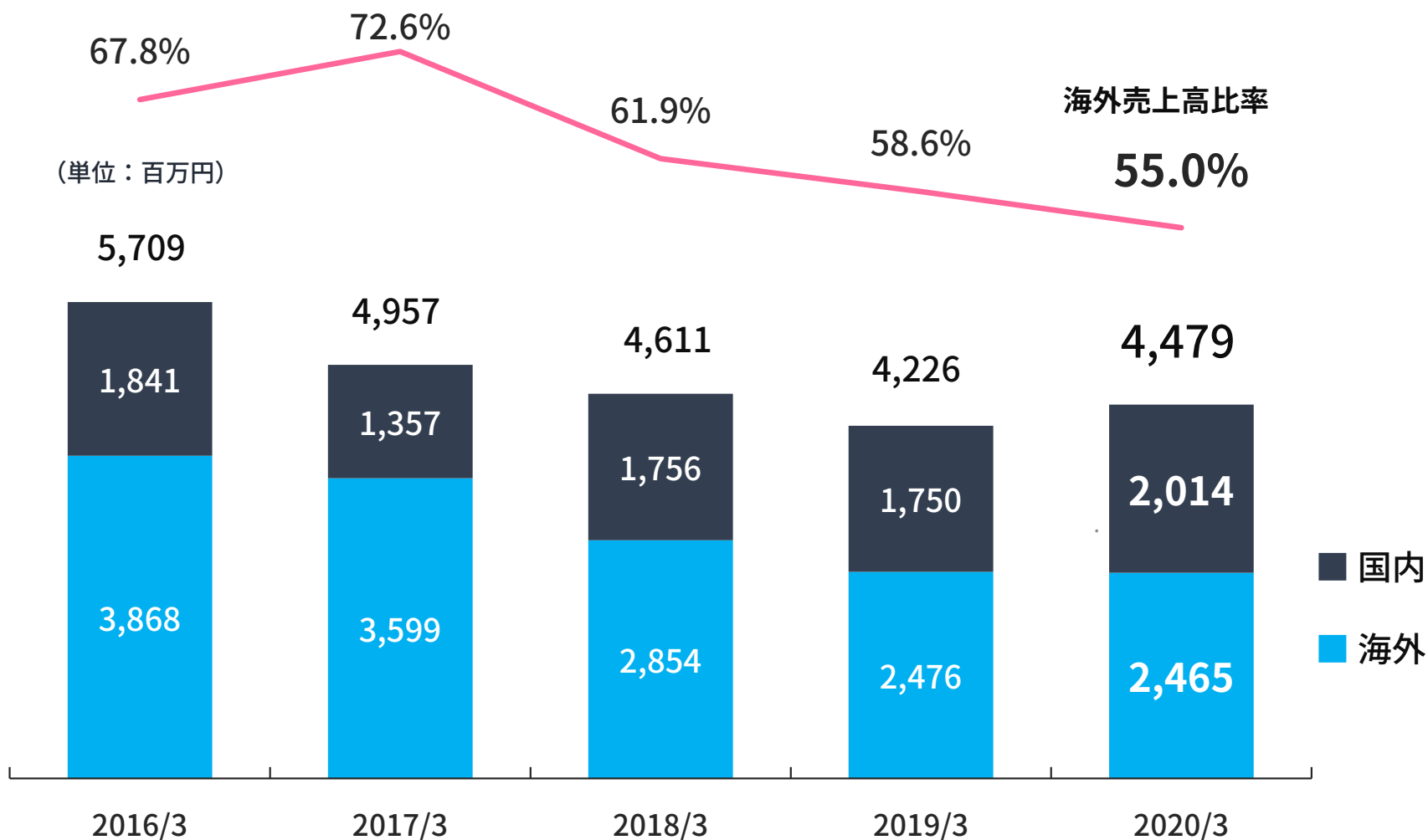
- 音叉型水晶振動子が好調を持続、ATカットは収益性を重視
- スマートフォン関連が好調、無線モジュール向けは減収も収益性改善

アプリケーション別

(単位：百万円)

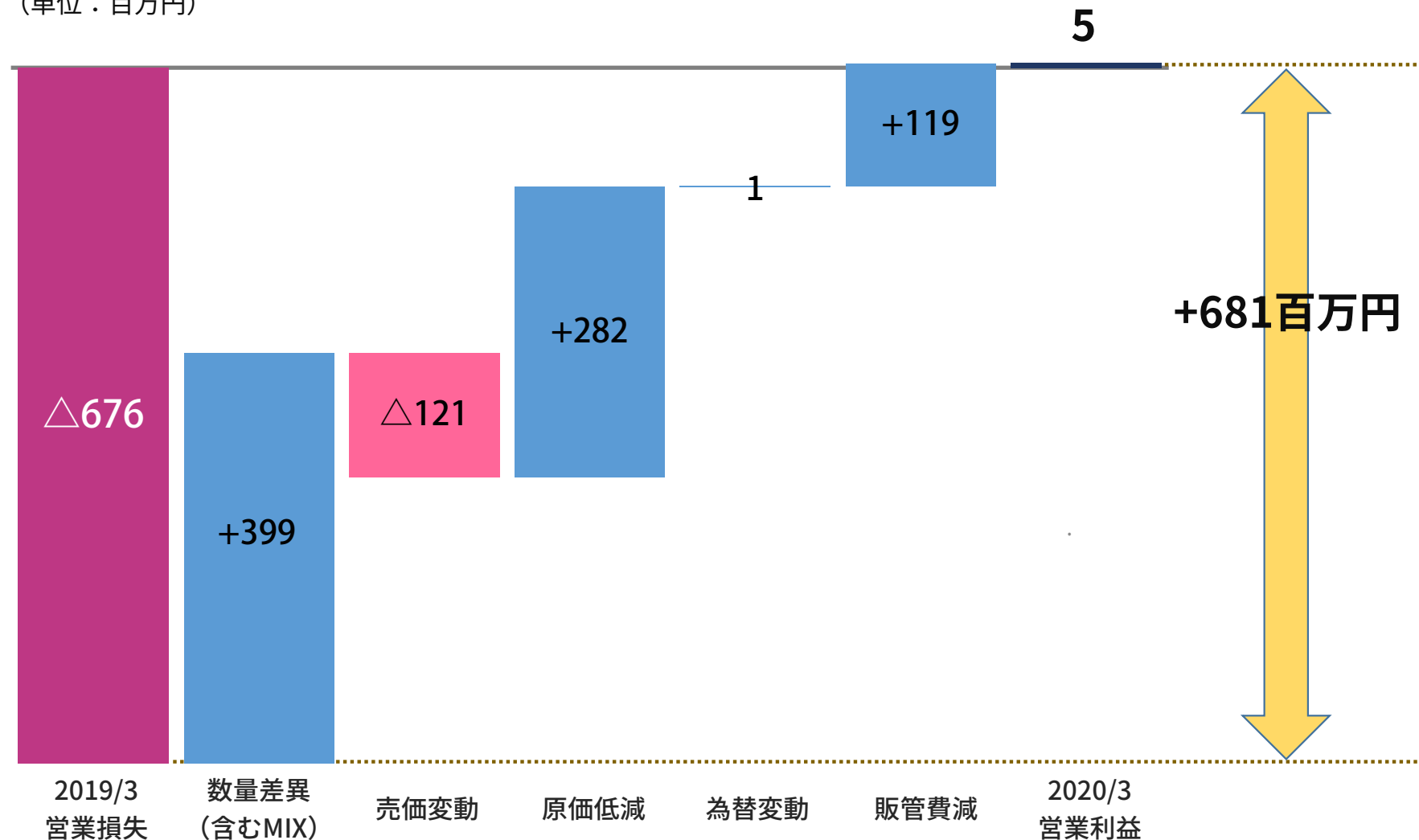


- 海外売上高：無線モジュール向けが減少するも、スマートフォン、医療機器向けが増加
- 主要メーカーの海外向け国内取入れ分を含めると海外売上高比率は微減



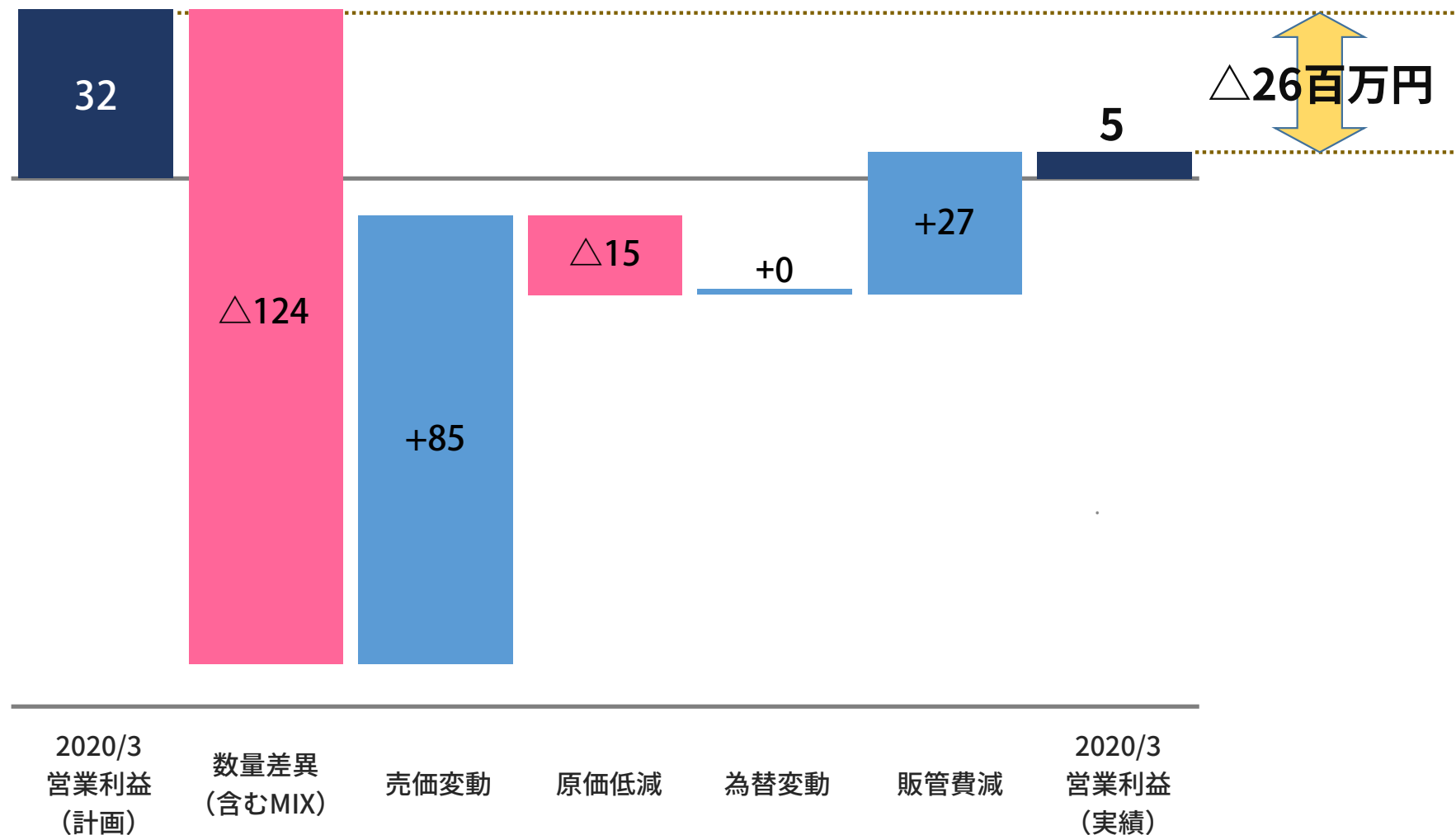
- スマートフォン向けは平均売価の下落あるも数量増加で増益
- 無線モジュール、車載向けは価格見直し等により収益性改善

（単位：百万円）



➤ 開発の遅れや市場環境の変化等により新製品の投入に遅れ

（単位：百万円）



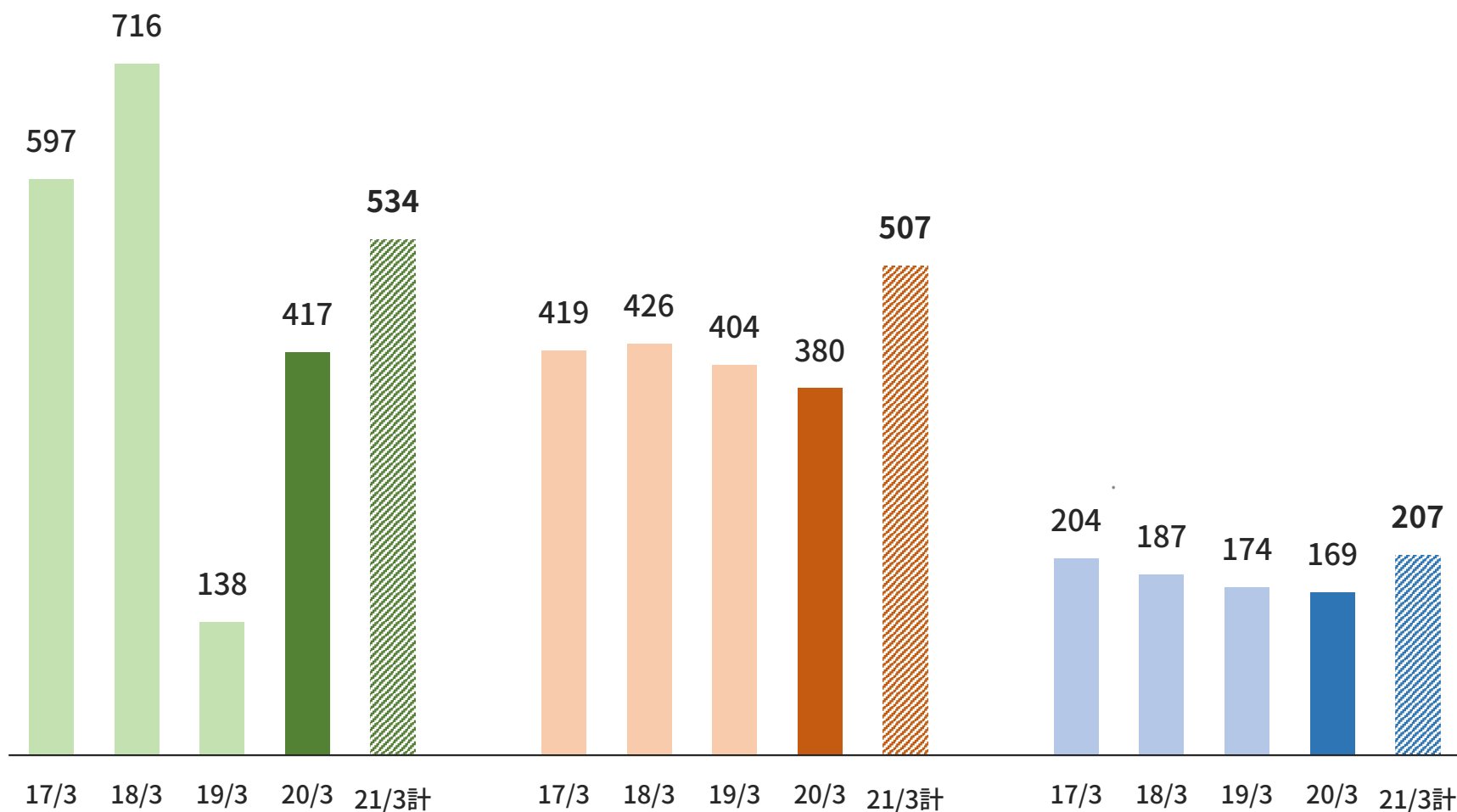
➤ 小型音叉型水晶振動子の生産増強

設備投資

減価償却費

研究開発費

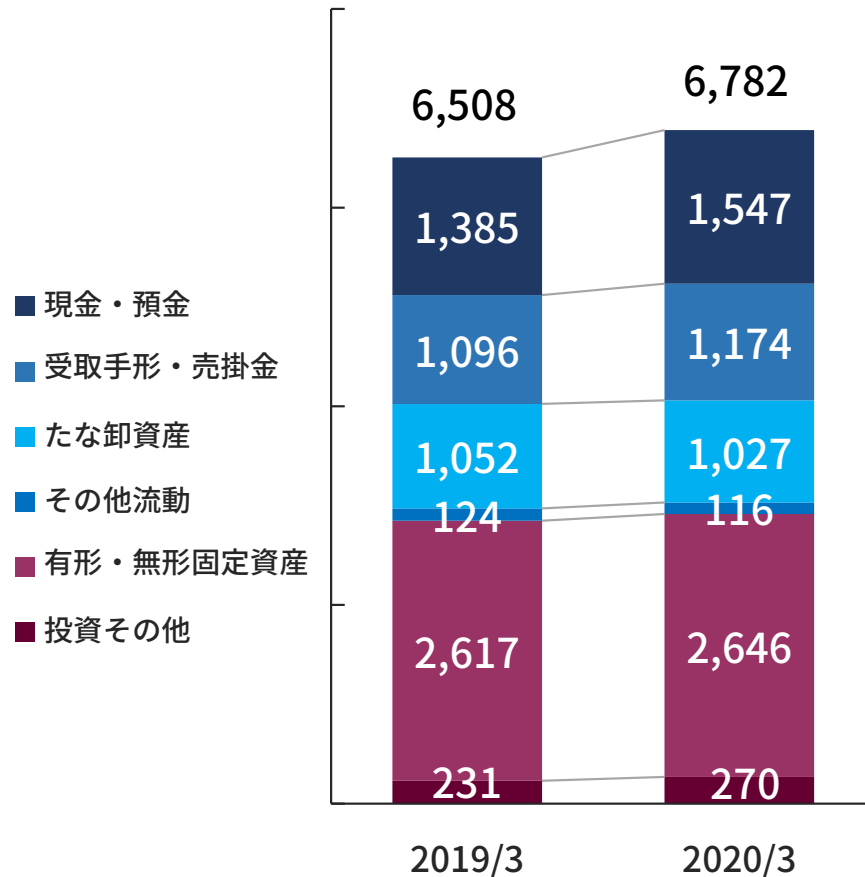
(単位：百万円)



- 資産 : 流動資産 +206百万円、固定資産 +67百万円
- 負債 : 設備関係支払手形 +201百万円、有利子負債 △169百万円
- 純資産 : 利益剰余金 +87百万円、自己資本比率 13.6% (+0.5pt)

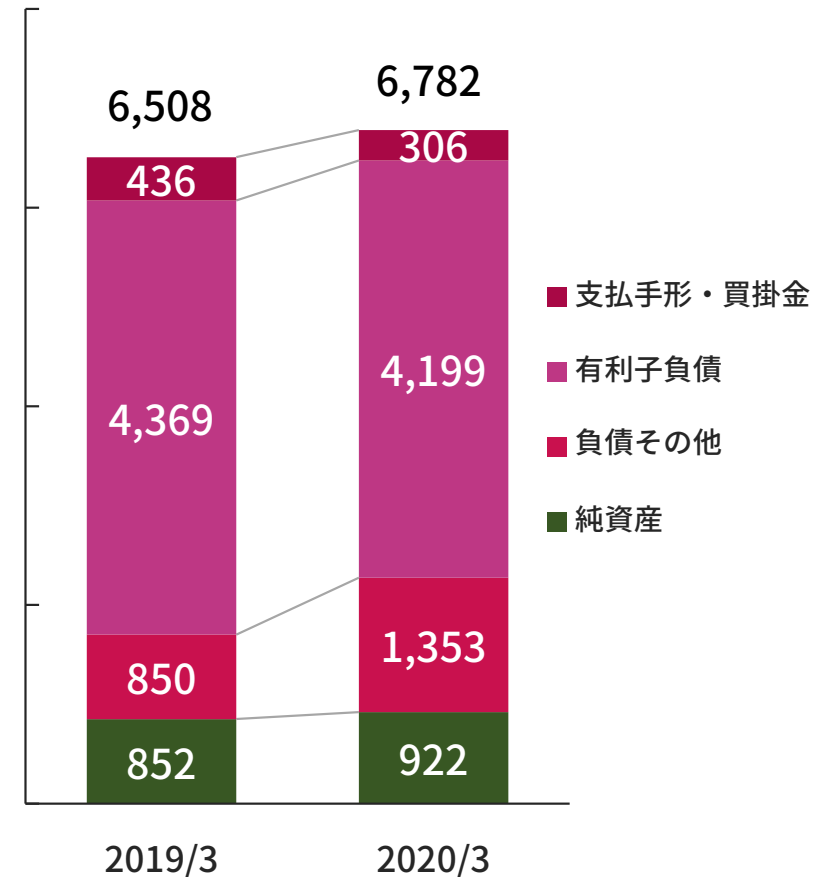
資産

(単位：百万円)

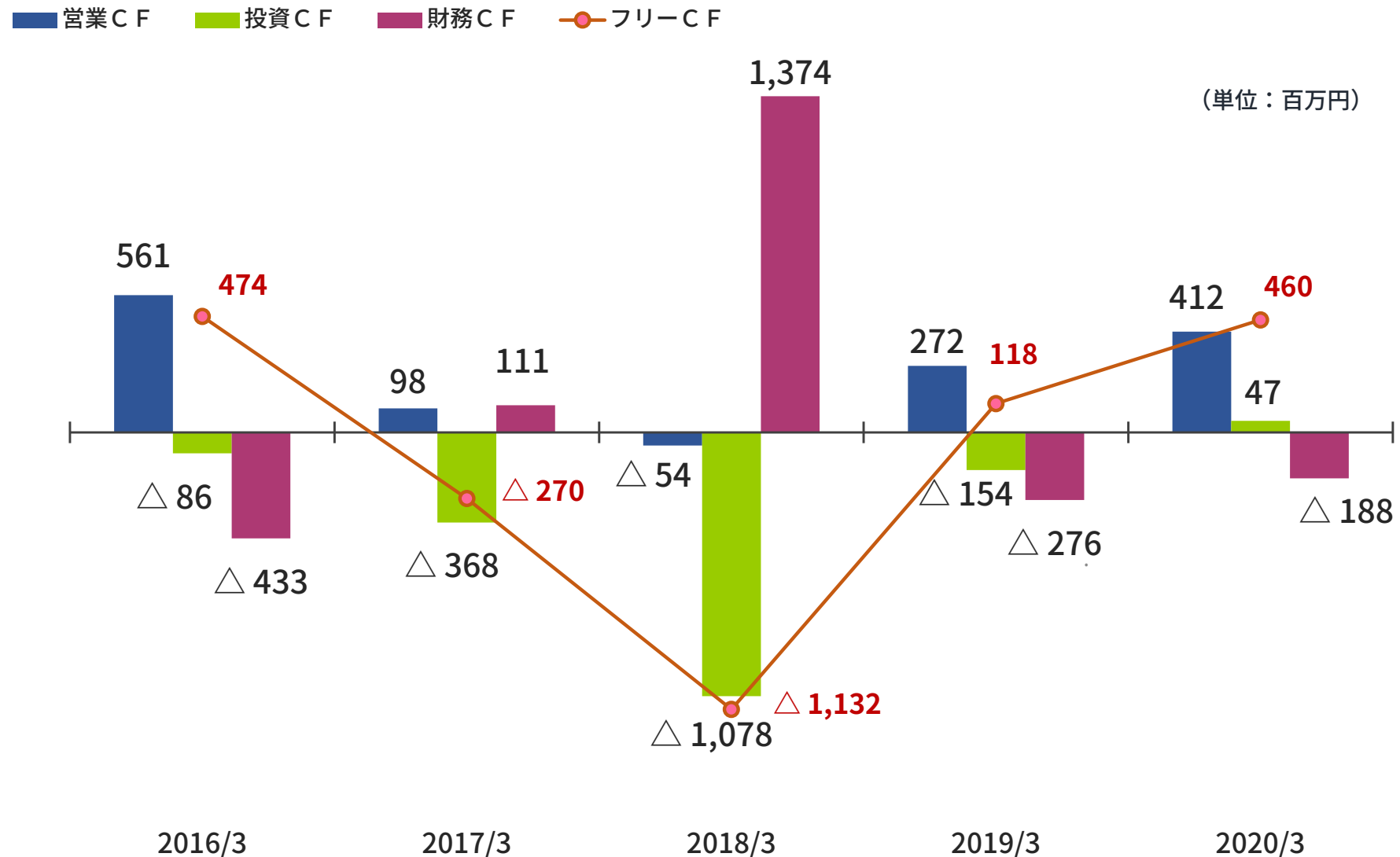


負債・資本

(単位：百万円)

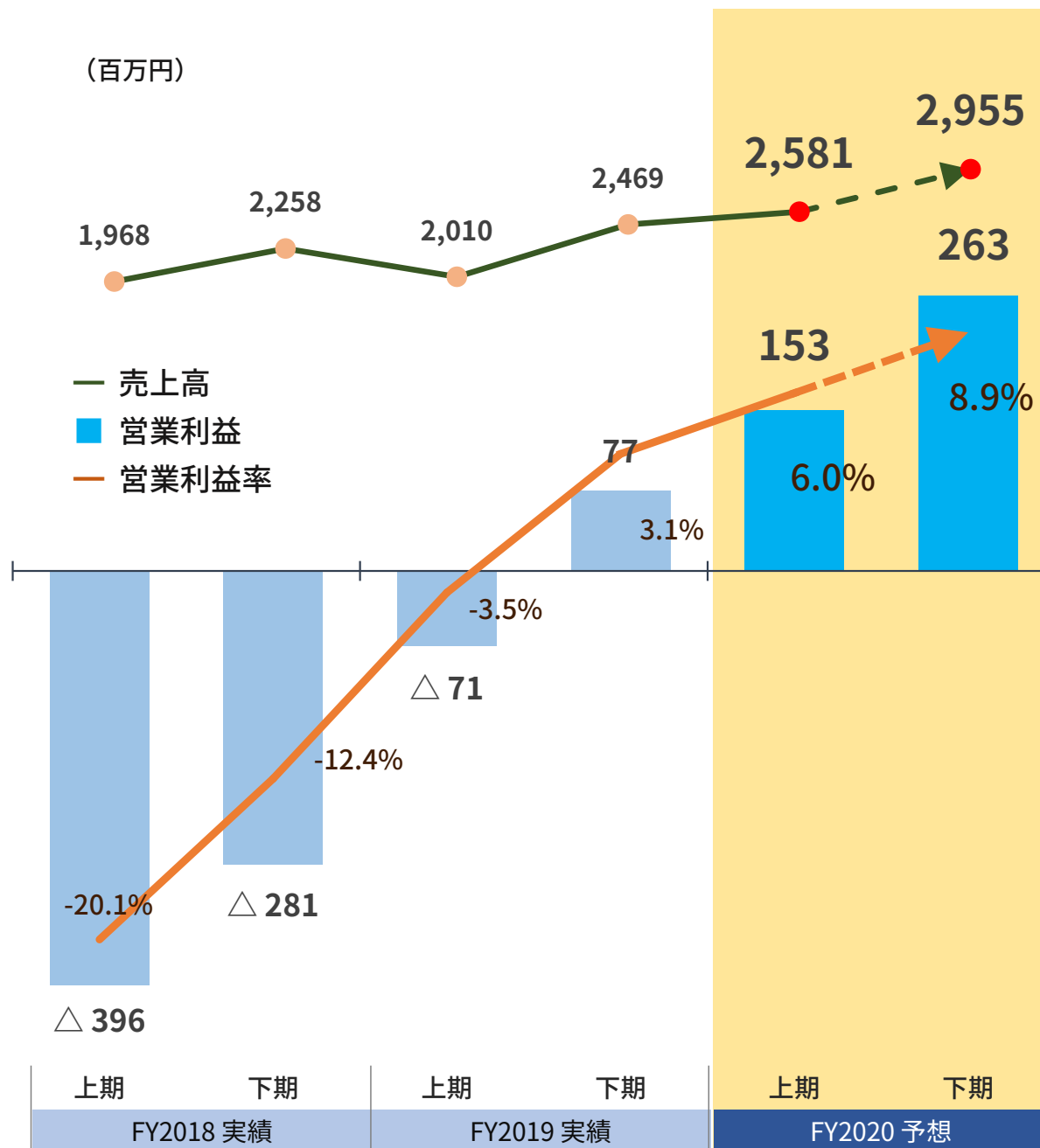


➤ 業績改善による営業CFの創出によりフリーキャッシュフローは改善基調



2021年3月期 通期業績予想

	FY2019	FY2020		増減 (増減率)
	通期	第2Q（累計）	通期	通期
売上高	4,479百万円	2,581百万円	5,536百万円	1,056百万円増 (23.6%)
営業利益	5百万円	153百万円	417百万円	411百万円増
売上高営業利益率	0.13%	6.0%	7.54%	+7.41pts
経常利益	△8百万円	133百万円	376百万円	384百万円増
親会社株主に帰属する 当期純利益	87百万円	91百万円	307百万円	220百万円増 (251.5%)
EPS	11.88円	12.35円	41.76円	29.88円増



2021年3月期通期予測

売上高 55.3 億円

営業利益 4.1 億円

通期達成に向けて

スマートフォンやその周辺機器向けの受注堅調により増収を見込む
 売価改善による収益力アップ、製造コスト低減、業務の効率化による販管費の削減など、利益コントロールにより増益を見込む

収束時期の見極めは難しいが、現時点において当社への影響は限定的

拠点・国（都市）	6/5現在の状況	経過等について
リバーエレテック 日本（山梨・東京・大阪）	通常稼働	緊急事態宣言を受けて東京営業所はテレワーク勤務を実施 感染防止対策の実施
青森リバーテクノ 日本（青森県）	通常稼働	影響なし 感染防止対策の実施
River Electronics (Ipoh) Sdn. Bhd. マレーシア（イポー）	制限により必要最低限の稼働	マレーシア政府による活動制限あり（2ヶ月間） 4/21から社内感染対策実施のもと稼働を再開
西安大河晶振科技有限公司 中国（西安）	通常稼働	中国政府の制限で1/24～2/23は稼働がストップ 3/4には通常稼働に復旧

➤ 資材調達・物流関連

現時点では特段の問題は発生していない。動向を注視し、事業の継続に必要な対策を講じていく。

➤ 製造

各国政府や地方自治体の方針に従い、感染防止対策を行ったうえで稼働している。製品の9割を国内製造しているため、青森リバーテクノ（株）における対策を徹底する。

当社は、連結業績や連結配当性向、また研究開発・設備投資や健全な財務体制を維持するための内部留保の充実などを総合的に勘案した安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針としております。

**2020年
3月期**

個別決算において利益剰余金がマイナスの状態であり、分配可能な原資確保が困難なことから、期末配当金は無配といたしました。

**2021年
3月期予想**

現時点では未定としております。今後の業績動向を勘案し、見通しが明らかになった時点で改めて公表させていただきます。

なお、今後早期に復配できる体制を確保すべく2020年5月22日に「資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分に関するお知らせ」を公表いたしました。

2021年3月期 今後の取り組みについて



短期

- 5G対応のスマートフォン及び周辺機器関連の需要が伸びると予想
- 自動車や産業機器向けの需要は後退局面
- 超小型音叉型水晶振動子の需要は堅調 旺盛な需要に応え、安定的な供給に注力していく

5G》IoT

中長期

- 5G市場の世界需要は2030年には168兆円に拡大する見通し（JEITA調べ）うち5G・IoT機器が6割を超える
- 電子デバイスの需要が増えるとともに、高い品質・信頼性を持った最先端の電子デバイスが求められる



リスク

- 新型コロナウイルスの拡大により世界経済の見通しは極めて不透明

引き続き、顧客・市場情報の共有化を図り、新規顧客開拓や成長領域を特定する

① 注力市場

- ・ 注力市場

スマートフォン等、スマートデバイスに加え、
自動車・医療ヘルスケア・産業機器市場に注力

- ・ 注力地域

アジア新興国と北米・欧州

代理店と連携強化し販売網の強化、新市場の開拓を図る

② マーケティング力の強化

開発と営業が一体となった技術営業力を強化
競争優位性のある製品をいち早く市場に投入し、
お客様の多様なニーズに応えていく

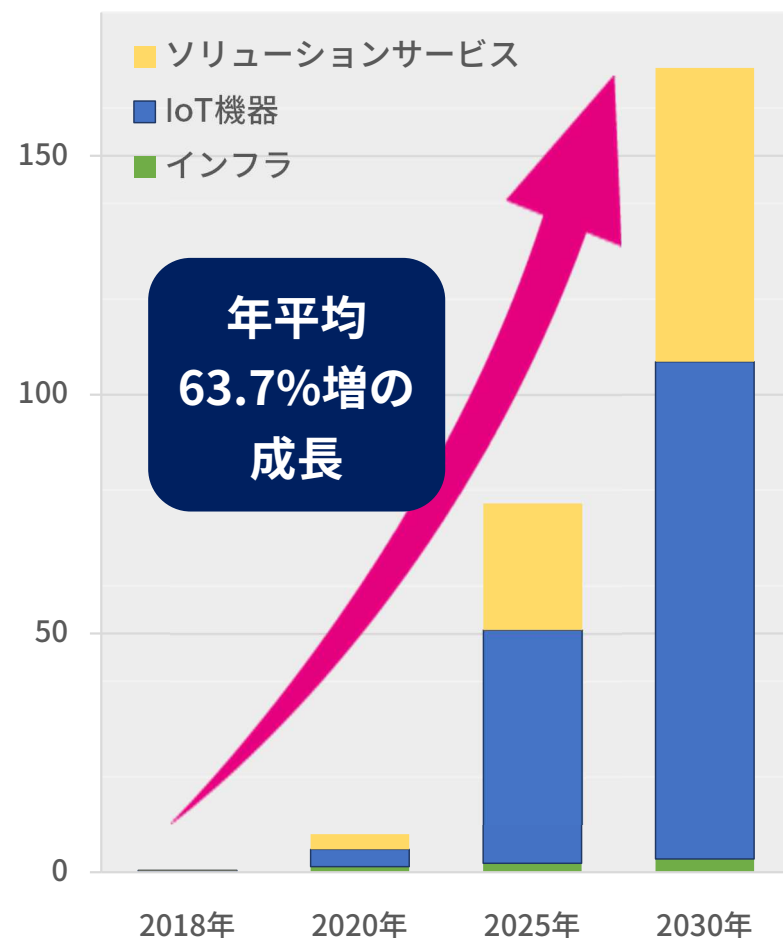
③ 事業構造変革による 収益力の強化

生産体制の最適化とコストコントロールの徹底
経営資源を柔軟かつ適切に配分し、
資産効率の最大化を目指す

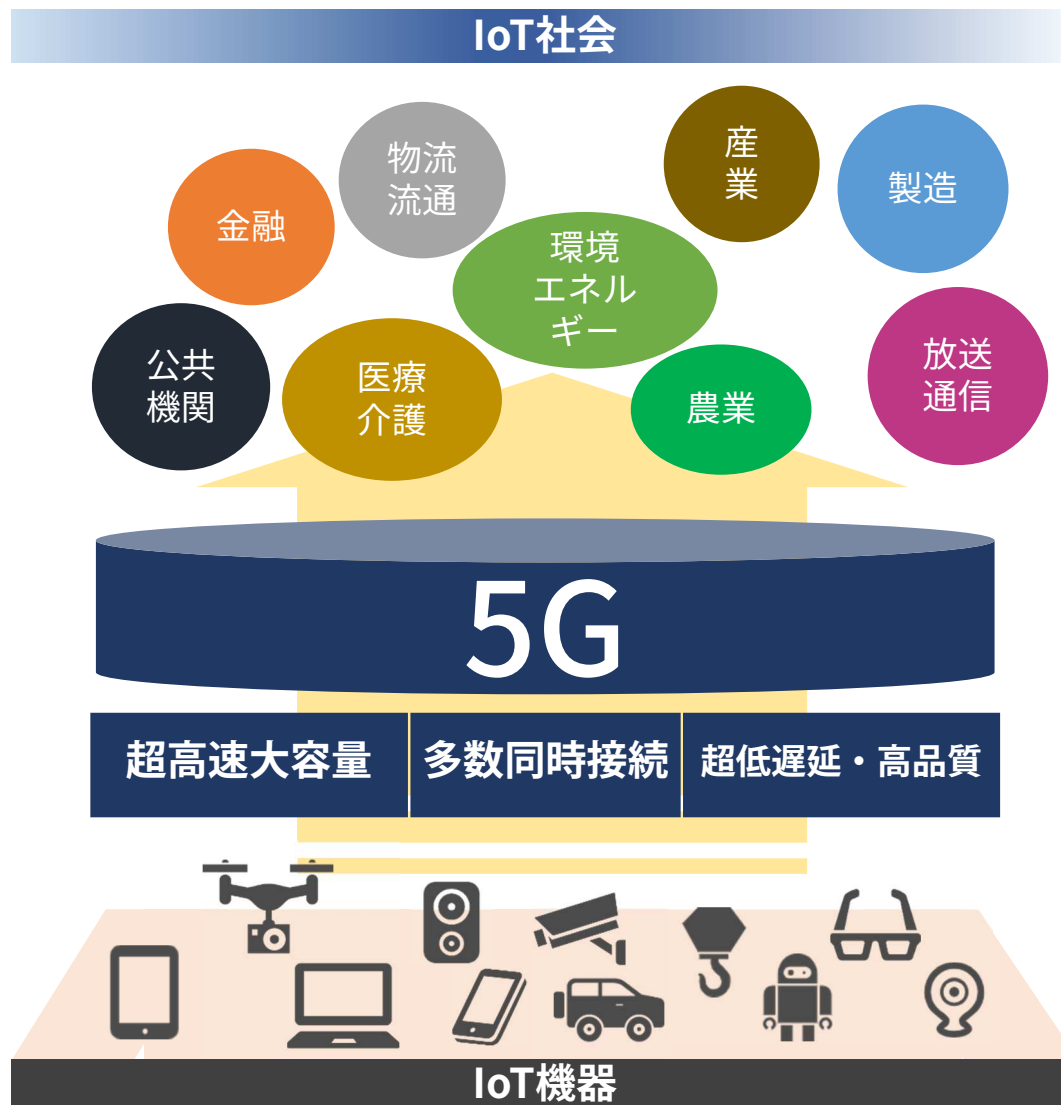
5G 市場の世界的需要が拡大し、IoT社会が進展 2030 年には 168.3 兆円（2018 年比 約300倍に拡大）規模に

5G市場の世界需要額見通し

単位：兆円



出典：JEITA



既存主力製品および次世代製品で市場競争力強化を図る
スマートフォン以外にも医療、産業機器市場（特殊・小口需要含む）へ拡販を進める

TFX-04

(1.6×1.0×0.5mm Max.)

需要増を背景に、他社が追随できないもう一段の市場競争力、収益力向上を図る



新規得意先の開拓が進む

TFX-05X

(1.2×1.0×0.35mm Max.)

金属間直接接合の「クリスタルケース」ウェアラブル機器向けに生産開始

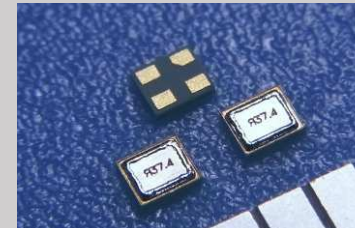


最先端市場への採用が進む

FCX-08

(1.2×1.0×0.33mm Max.)

製品の高さ寸法が0.3mmMAXに対応可能低インピーダンス化、温度範囲拡張も視野



複数の5Gチップへの採用決定

医療、産業機器の他、今後IoTの技術進歩により見込まれる分野へ拡販を進める

スマートウォッチ



ARグラス



ワイヤレスイヤホン

TWS(True Wireless Stereo)



デジタル補聴器



医療・ヘルスケア用のIoT機器向けに生産開始



TFX-05X



医療の分野は、個人の健康管理の他、今後日本が迎える超高齢化社会に向けてスマートフォンを活用した遠隔診療サービス等の普及が進むと予想される

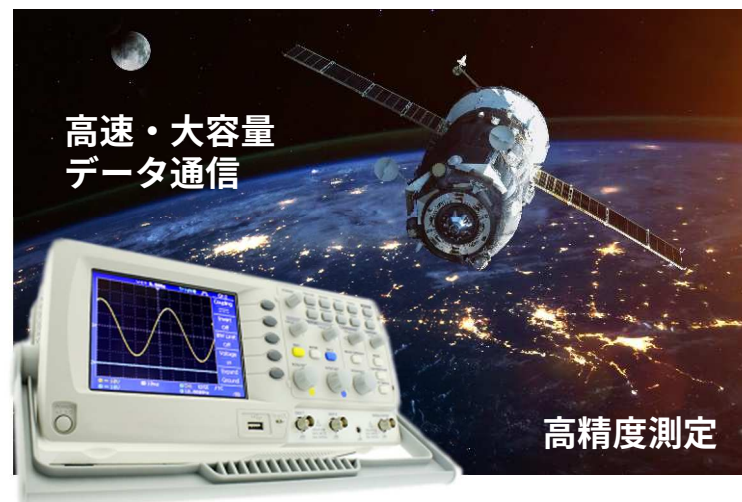
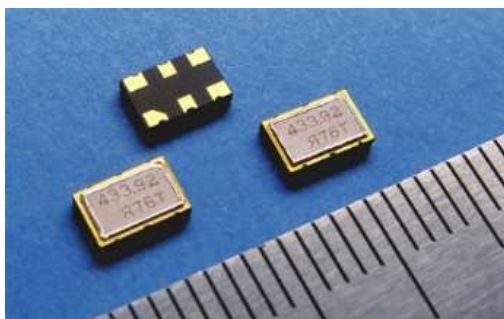
差別化を図る高付加価値製品の生産を開始

次世代共振子

Lamb波共振子

3.2×2.5×0.9 mm Max

■SAW共振子を超える、新特許技術による周波数温度特性に優れた次世代製品



高速・大容量
データ通信

高精度測定

特許取得（第5563378号）独自技術

300MHz~1.2GHzを実現

良質な位相雑音を実現

良好な温度特性を実現

ターゲット

エアロスペース、計測器、次世代通信等のミリ波帯領域

海外大手メーカーに供給開始

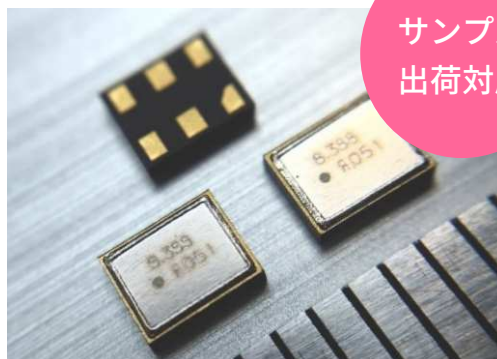
使用温度200℃対応 GTカット水晶発振器『GTXO-04』を開発

プログラマブル水晶発振器

GTXO-04

3.2×2.5×0.85 mm Max

- 高温域での安定動作を実現
- 3種の出力仕様、VCXO機能の選択が可能な多機能製品
- 広い出力周波数
7.9 MHz～1,124MHz



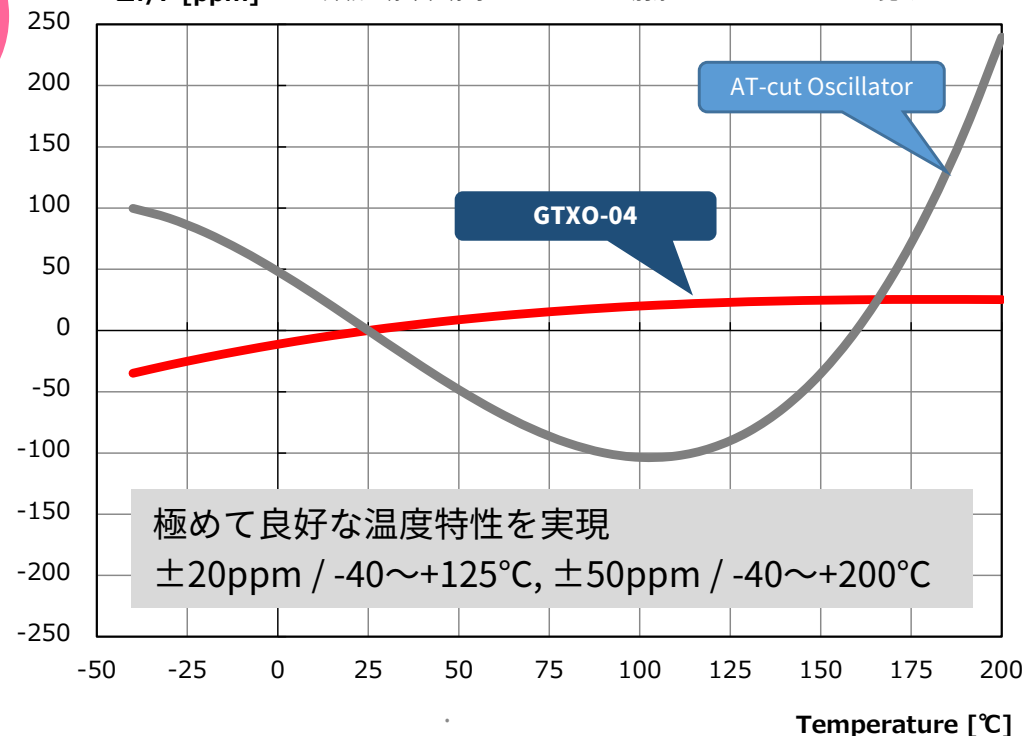
サンプル
出荷対応

独自のフォトリソ技術による
GTカット水晶片



従来のATカット水晶発振器では困難と
された高精度を高温域で実現

△f/F [ppm] 詳細な標準仕様等につきましては別添のプレスリリースをご覧ください



ターゲット

エアロスペース、自動車、通信基地局
等の過酷な温度環境下

2020年1月28日「設備増強に関するお知らせ」発表

目的

音叉型水晶振動子
旺盛な需要への対応

昨年より当社製品への受注が伸長。さらなる供給には当社の生産能力を増強する必要性があるため。

受注急増の背景

- ・ 次世代通信規格5G
- ・ 中国市場参入
- ・ 品質および信頼性が評価

投資額
5億円

投資開始時期
2020年5月



設備増強は計画通り実施
フル生産の状態が継続中

新型コロナウイルス
感染防止対策も継続
実施中



生産子会社

青森リバーテクノ株式会社（青森県青森市大字野木字山口245-11）

水晶振動子の製造ライン



Connecting to the Future

リバーエレクトック株式会社

本資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などの記載は、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しに過度に依存されないようお願いいたします。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、為替変動、当社の事業領域に関連する技術革新や需要変動、当社の開発・生産能力などが含まれます。

ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。